学校事例 1

子ども主体の話し合い活動で「自分たちが授業をつくる」意識に

秋田県　横手市立朝倉小学校

2009年度から言語活動の充実に向けた研究に取り組む横手市立朝倉小学校。学力を更に伸ばしていくために、14年度から、子ども主導の話し合い活動に重点を置いている。学校が一丸となって研究に取り組むにつれて、子どもたちに「授業は自分たちでつくるもの」という主体的な意識が芽生えつつある。

取り組みのねらい

- 自分たちで課題を見付け、それを解決していく授業をつくる
- 子どもが学習を自分のこととして理解できるようにする
- 相手の考えをしっかり聞き、自分の考えを理解してもらう力を付ける

取り組みの内容

- 話し合い活動を軸とした授業スタイルを教師間で共有する
- 教師と子どもが理想の授業像とその意図を共有し、実現を目指す
- 研究授業の活性化や教師の自己評価の導入などで、研究を推進

取り組みの成果

- 子どもたちが「自分たちが授業をつくっている」という意識を持つようになった
- 子ども主導の話し合いにより、課題の解決に向かえるようになった
- 教師の指導観が変化し、教師の出番を見極められるようになった

School Data

◎1997（平成9）年、横手北小学校、朝倉小学校の統合により設立。教育目標に「やさしく　かしこく　たくましく」を掲げ、言語活動の研究に力を入れている。2013年度からNIE研究指定校。

校長	永沢敏昭先生
児童数	436人
学級数	15学級（うち特別支援学級２）
所在地	〒013-0008　秋田県横手市睦成字碇185
TEL	0182-32-6070
URL	なし
公開研究会	2014年10月30日（木）予定

取り組みのねらい　これからの社会に必要な言葉の力を育むために

横手市立朝倉小学校の学区は、米や果物を栽培する農村地帯と市街地から成る。三世代同居の家庭が多く、地域に見守られて育つ子どもは、全体的に穏やかで優しい。教育熱心な保護者は多いが、塾に通う子どもは少なく、勉強は学校を中心に考えているという。永沢敏昭校長は次のように話す。

「地域や保護者が学校を信頼してくれるおかげで、先生方は自信を持って指導をしています。子どもの多くは、入学時に規範意識の

「学びたい！」意欲を伸ばす言語活動

土台が出来ていて、積極的に学習に取り組むこともあり、学力は概して高めです。半面、周囲が自分の考えを察してくれる以心伝心の環境で育つからか、自分を表現する力に課題を感じています。せっかく力があるのに、それが見えにくいように思うのです」

同校の教師のチームワークは良く、切磋琢磨する関係にあることも強みだという。

「どの先生も努力家で、一丸となって校内研究に取り組んでいます。平均年齢が48歳とベテランが多いことも安定した指導の要因でしょう。一方で、若手教師への指導技術の継承という課題も抱えています」（永沢校長）

横手市では、2009年度から市内の全小・中学校で言語活動の研究に取り組んでいる。小中連携を強く意識して中学校区単位で研究を進めており、各校区の研究成果を市全体で共有している。

これまでの研究を通し、教師間では、言語活動の目的やそれを実現する授業のあり方についての共通理解が得られた。子どもには、話す・書くことへの抵抗感が減り、学習意欲が向上するなどの成果が見られたが、研究に行き詰まった時期があったという。

「授業は改善されましたが、高学年に伸び悩みが見られました。子ども主体の授業を追求していましたが、『本当に主体的になっているか』『学ぶ内容を自分のこととして理解しているか』と自問すると、まだ不十分という考えに至りました」（永沢校長）

こうした課題を踏まえ、14年度は「聴いて、考えて、つなげて話すことを通して考えを深めていく子ども」を研究主題にした。研究主任の佐藤利美先生はこう説明する。

「子どもが自分たちで課題を見付けて、考え、解決していく体験が、これからの社会を生きる力を育むために必要だと考えました。そのためには、相手の考えをしっかり聴き、自分の考えを相手に理解してもらわなければなりません。言語活動の充実により、そうした言葉の力を育もうとしています」

取り組みの内容

教師は出番を見極め 子ども主導で話し合いを進める

研究では、教師間で授業スタイルの共有化を図っている。授業の導入時には本時のねらいや付けたい力を明確にし、子どもが興味・関心を持てる課題を設定する。続いて、課題解決のための方法を子どもたちが考え、話し合い活動を行う。授業の最後は、冒頭で示したゴールに沿って、自分の言葉でまとめるという流れだ。

14年度は、話し合いを充実させるために、友だちの意見を比較しながら聴く指導に重点を置いている。きちんと聴いて、理解を深め、思考を巡らせ、それを表現するというプロセスを通じて、子どもの主体性を引き出すと共に、考える力を育てようとしている。6学年主任の高橋智恵子先生は、次のように説明する。

「理解して思考して表現するという流れを念頭に置いて授業をつくると、子どもは主体的に授業に取り組まざるを得ません。理解し

横手市立朝倉小学校校長
永沢敏昭 ながさわ・としあき
「自分自身の幸せと社会の平和のために、相手が望む言葉を掛けられる感性を身に付けてほしい」

横手市立朝倉小学校
佐藤利美 さとう・としみ
研究主任。3学年担任。「子どもの真剣な表情を引き出すために、一緒に喜んだり怒ったり泣いたりしたい」

横手市立朝倉小学校
佐藤詩輝 さとう・しこう
4学年担任。「子どもが実感を伴って理解するために、自分のこととして捉えられる授業をする」

横手市立朝倉小学校
佐藤輝子 さとう・てるこ
5学年主任。「常に子どもたちに本気で向き合いたい。褒める時はとことん褒め、叱る時はきっちり叱る」

横手市立朝倉小学校
高橋智恵子 たかはし・ちえこ
6学年主任。「子どもの様子は、自分の授業を映し出すもの。常に子どもから学び続ける教師でありたい」

なければ思考は出来ず、思考しなければ表現は出来ないからです。自ら取り組むようになれば、おのずと思考力や表現力も高まります」

子ども主体で進めるために、教師が発言する場面を出来るだけ少なくするよう、その見極めも大切にしている。

「教師の出番が少なくても話し合いが成り立つためには、子どもが明確なゴールをイメージ出来る課題を設定し、重点的に話し合うポイントを絞り込むなど、教材研究を深く行うことが欠かせません。これが不十分だと、話し合いが焦点化されず、だらだらと時間が過ぎてしまいます」（佐藤利美先生）

もちろん、教師の想定通りに話し合いが展開しない場面もある。5学年主任の佐藤輝子先生が話す。

「子どもが気付くまで我慢するのが、教師の基本スタンスです。話し合いの方向がずれることもありますが、子ども自身が軌道修正するのを待ちます。ゴールへの糸口は、いろいろな考えが出される中から見付かることが多いので、子どもには間違いを恐れず、自分の考えを言葉で表すことが大事だと繰り返し伝えています」

大きな集団では発言が出にくい場合は、ペアやグループで話し合ったり、自分の考えを書いたり、自信を高める時間を持たせたりして、話し合い活動が活発になるよう工夫している。

皆の言葉がつながっていくのが良い授業

教師と子どもが、理想の授業像を共有することにも努めている。その一環として、望ましい学習姿勢を示した「『聴き方・話し方』ステップシート」を全ての子どもに配布した（**図1**）。これは、学年ごとに到達したい聴き方と話し方をまとめたものだ。例えば、聴き方は、1年生は「話す人の方を見て聴く」「人の話をさいごまで聴く」といった基本から始まり、3年生以上は「自分の考えと比べながら聴く」、5年生以上は「課題に沿った話し合いができているのか考えながら聴く」とステップアップする。シートの裏面には、より具体的な「あたたかい聴き方・やさしい話し方」を例示している（**図2**）。学級によっては、机に貼ったり下敷きにしたりして活用している。

「理想的な学習態度を伝えることで、子どもが『皆の言葉をつないでいくのが良い授業なんだ』という意識になってきました。マニュアルと捉えられないように、『こんな聴き方や話し方をすると、皆が話しやすくなり、良い学習になるよ』と、意図をしっかり伝えています」（高橋先生）

図1　「『聴き方・話し方』ステップシート」（聴き方を抜粋）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	ステップ
課題に沿った話し合いができているのか考えながら聴く					★	★	STEP 8
話し手の意図や目的を考えながら聴く				★	★	★	STEP 7
話し手の言いたいことを分かろうとして聴く			★	★	★	★	STEP 6
自分の考えと比べながら聴く			★	★	★	★	STEP 5
友だちの考えをふくしょうできるように聴く		★	★	★	★	★	STEP 4
うなずいたりつぶやいたりしながら聴く	★	★	★	★	★	★	STEP 3
人の話をさいごまで聴く	★	★	★	★	★	★	STEP 2
話す人の方を見て聴く	★	★	★	★	★	★	STEP 1

子どもに理想の学習姿勢をイメージさせて、自分がどの段階にいるかを振り返るように促している

＊同校の資料から抜粋して編集部で作成。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトで全文をご覧いただけます。http://berd.benesse.jp > 教育情報>小学校向け

図2　「あたたかい聴き方・やさしい話し方」（3年生、5年生を抜粋）

友だちの考えを聴きわけ、違いを考える	5年	～さんと～さんの考えをくらべると…　～さんの意見を聴いて考えが変わったのですが… ～さんと～さんの考え、どっちがいいのでしょうか みんなの意見を比べてみて考えたのですが… 私はどちらかというと～さんの考えに賛成で、なぜかというと…
友だちの考えを言いかえる		～さんの言っていることは、…ってことですよね。私も…、私は… ○○さんの意見はつまり…でしょう
たとえて話す	3年	たとえば…　それって～にたとえると…　もし…だったら
分からないことをたずねる		～さんが言っていることが分からないので、もう一度言ってください　だれか教えて ～さんにたずねます　質問します
図を使って説明する		前に出ます　書いて説明します　この絵を見てください　黒板を見てください

具体的な聴き方や話し方を例示している。授業ではこのシートを参照して発言し、話し合いを深めていく姿が見られる

＊同校の資料から抜粋して編集部で作成。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトで全文をご覧いただけます。http://berd.benesse.jp > 教育情報>小学校向け

「学びたい！」意欲を伸ばす言語活動

全教師が実践を自己評価し次の目標を生み出し続ける

学校が一丸となって取り組む研究体制にも注目したい。まず、年度初めに研究主任がモデル授業をして具体的なイメージを共有している。研究授業は毎月行い、事後検討会では、論点が散漫にならないよう、「思考を深めるための手立ては有効か」「教師の出番は適切か」と2つの観点に絞って議論している。

「常に自分の授業に置き換え、良い点だけではなく、『こうしたらもっと良くなりそう』といった意見を出し合っています。子どもに『聴いて、考えて、つなぐ』という視点を求めるためには、まず教師自身がそれを実践しなくてはならないという思いがあります」（佐藤輝子先生）

研究成果を授業に効果的に反映させるために、毎月、重点チェック項目を示し、教師が自己評価をするのも特徴的な試みだ。自己評価の集計結果を共有し、そこから次の目標が生み出される（図3）。

取り組みの成果

教師の導きに頼らずに子どもが自分たちでゴールを目指すように

このような話し合い活動を続けたところ、子どもの中に「自分たちが授業をつくっている」という意識が生まれてきているという。

「子どもたちは、今まで教師が自分たちの良い考えをつないでまとめてくれるのを待っていましたが、話し合いを任せていくと、次第に自分たちでゴールを目指すようになりました。意識の変化は大きな一歩です。まだ話し合いがうまくいかない場面もありますが、『自分たちでやることが大事』と伝えています」（佐藤利美先生）

子どもの変化を目の当たりにして、教師の指導観も大きく変わっている。4学年担任の佐藤詩輝（しこう）先生はこう語る。

「学級づくりが授業の土台という考え方もありますが、良い授業が学級づくりの土台になると気付きました。そして、学校生活の中心である授業を通して、学力や学習する力を付けたいと改めて思いました。また、先生方の授業を気軽に見に行くようになり、目指す授業が明確になったことで、自分自身の授業が良くなってきたという実感があります」

明確な方向性を共有し、今後も研究を推進していく考えだ。

「本来、子どもは主体的であるのに、教師の意図に沿った課題に取り組むことを求め過ぎて、主体性を奪っていたのかもしれないと反省しました。研究を通し、子どもの力でゴールに向かう場を準備することが、教師の仕事という思いが強くなっています。そうした授業を積み重ねる中で、子どもはどんどんたくましくなり、やがて自分の考えを発信して社会に貢献できる大人に育つのだと信じています」（永沢校長）

図3　「朝倉小学校研修だより」

朝倉小学校研修だより No.8

一日一歩

平成26年6月9日

5月の学習指導をチェック！

実践項目 | 自己評価の視点 | A | B | C

「ステップシートの活用」「反応しながらあたたかく聴く」ことはさらに意識して仕込んでいく必要あり！！
子どもたちにも重点を伝えて、常に意識させていきましょう。

A評価が増えました。この調子です。

研究主任が毎月発行する「朝倉小学校研修だより」では、教師の自己評価の結果を集計し、伸びた点を示して認め合いを促すと共に、改善が望まれる点を指摘している
＊同校の資料からイラストを削除して掲載